

ふくちやまCAP

2018年度 事業報告

(2018年4月1日～2019年3月31日)



目次

CAP とは

2018年度 総括

2018年度主な事業

- ・保護者ワークショップおよび相談の場
「つながって安心な子育て」(京都府)
「つながる一む」(全労済)
- ・教職員ワークショップ
福知山市立大正小学校
児童虐待未然防止対策研修会(丹後保健所)
- ・地域ワークショップ
人権を考える女性の集い(福知山市)
- ・児童養護施設ワークショップ
峰山乳児院・てらす峰夢(みねやま福祉会)
- ・啓発活動

○ CAPとは

CAPとは、【Child Assault Prevention】＝〔子どもへの暴力防止〕のことです。

CAPプログラムとは、子どもがいじめ・虐待・体罰・誘拐・痴漢・性暴力など様々な暴力から自分の心とからだを守る暴力防止のための予防教育プログラムのことをいいます。

CAPプログラムは「子どもの大切な3つの権利（あんしん・じしん・じゆう）」をいじめ・虐待・性暴力などの暴力で脅かされることから子どもを守るために何が出来るのかを、保護者、地域のおとな、教職員、そして子ども自身に伝え、共に考える中で、子どもの人権意識を育て、子どもの”内なる力”を引き出す役目を持っています。

暴力防止のアプローチとして、

「教職員ワークショップ」と「保護者（地域）ワークショップ」と「子どもワークショップ」の3つのワークショップがあります。

○ 2018年度 総括

2003年より学校や園、施設などにCAPプログラムを行うことで、子どもへの暴力防止の活動をしています。この数年、子どもの命が大人の不適切な関わりにより失われるという悲惨な事件が相次ぎ、社会では児童虐待が深刻な出来事としてとらえられており、虐待防止への関心はこれまでにないほどに高くなってきています。

ふくちやまCAPは昨年度に引き続き、各地域に向けて虐待防止の啓発を続けてきました。京都北部各市の担当部署に訪問しての啓発活動は、その後の虐待防止の研修の依頼につながり、行政での虐待防止の取り組みにもCAPの3つのワークショップが必要とされていることを実感しました。

振り返り・今後の活動

ワークショップの参加者には、CAPプログラムを体験することで、子どもの人権を尊重すること、しつけに体罰が必要ないことを実感していただきました。

さらに、2020年4月から適用される改正児童虐待防止法の中で、親は「児童のしつけに際して体罰を加えてはならない」とされ、さらに児童福祉施設の施設職員らによる体罰も禁止されることになったことをうけ、体罰の全面的禁止の啓発にもつながる「しつけと体罰の違い」「子どもとの関わり方」などを考える保護者（地域）・教職員ワークショップを実施する必要があると考えています。また、子どもには、いじめや虐待などの暴力から、心と身体を守るために何が出来るか、自分を大切にし、相手を大切にすることはどういうことなのかを、寸劇を用いワークショップ形式で共に考えるCAPプログラムを提供していきたいと考えています。そのためには各地域や行政、学校・園などに、虐待防止におけるCAPプログラムの有効性を伝え続ける必要があると考えています。

○ 2018年度の主な活動

保護者ワークショップおよび相談の場

1. 「つながって安心な子育て」京都府・児童虐待防止地域推進事業

～わたしも 子どもも ハッピーになる保護者ワークショップ～

活動内容：CAPプログラムを構成するアプローチの一つである「保護者ワークショップ」を行い、しつけなど子育ての悩みや虐待などについて話し合うことで、子どもが暴力から心とからだを守る暴力防止につなげる。

予算：150,000円

日時：2019年1月24日・31日・2月7日（計3回）

（いずれも木曜日 10時～12時）

場所：福知山市立丘児童センター

参加人数：6人

（受講者からの感想・意見の集約）

- ・子どもを親の思い通りにしてはいけない。子どもと接する時に、安心・自信・自由の3つの柱があることが大事と思いました。
- ・「権利」というと難しく感じますが、CAPの安心・自信・自由は、子どもにもわかりやすいと思います。
- ・初日から、自分の悩みを口に出してしまっただけでしたが、皆さんに受け止め聞いてもらえてよかったです。
- ・これまでの子どもとの接し方を振り返る機会になったし、今後の向き合い方のヒントをいただけました。
- ・話しをしたり、聞いたりして楽になりました。これからも参加者の皆さんと親の大変さを共感し、一緒に子育てを頑張っていけたらと思います。
- ・「エンパワメント」「肯定的な言葉がけ」「怒りを感じるのは、豊かな感性があるからでただ怒りを弱い者の方へ向けない」「暴力以外の解決方法がある」等、知識を得て、いろんな方法を知ることができました。
- ・子どもの困った行動に対して我慢するだけでなく、「困ったなー」「それをされると嫌な気持ちになる」等、ちゃんと伝える親の姿をみせ、子ども自身も困った時、親に伝えられるようになってほしいです。
- ・人と人との距離感や母親にとっての男の子の体についてなど、正しい知識を得たいです。

(保護者ワークショップの様子)



(事業の振り返り)

子どもも一人の人として権利があることを認識し、その権利を尊重するということは、どういうことなのか。日々の悩みを話しながら、暴力を使わない子育てにつながる具体的な言葉かけや方法などを参加者と一緒に考えることができました。

講座の回を重ね、悩みを話すことで参加者同士の関係が深まり、講座が終わってからもSNSを使ってグループを作り、子育ての情報交換や悩みを話せる場ができています。福知山市に引っ越して来られたばかりの参加者の方も、この講座で子育ての仲間ができ、良い関係を作られています。

中丹西保健所の職員の方、福知山市の職員の方も参加していただき、公的機関とも連携し合えるきっかけになりました。

約1ヶ月後のフォローアップ講座では、男の子の体について知りたいとの意見を受け、絵本等を用いて、子どもの体・性についての正しい知識を深める会としました。子どもの体だけでなく、親自身の心や体を安心・自信・自由にしておくことについても伝え、DV防止につながる講座にもなりました。

2. 「つながる一む」全労災地域貢献助成事業（2019年12月まで継続事業）

活動内容：育児相談など、安心して子どもを育てるための支援を行い、虐待や暴力のない、子どもの権利が大切に守られる社会を作ることを目的とする。

毎月第一水曜日に、子育て中の親に呼びかけて少人数でワークショップを行い、育児の悩みやストレスを話し合ってもらおう場とする。また、虐待と躰の違いや親子で過ごす時間の大切さなどを学んでもらう。

予算：300,000円

日時：毎月第1水曜日、10時～12時

場所：たんたんスペース福知山・与謝野町立かえで子ども園

参加人数：毎月1組～4組程度

2月6日（水）10：00～12：00は
みんなで子育て
つながる一む
もうひとりで悩まないで！！

子育てに疲れて、ついつい子どもにあたってしまふ
思い通りにいかないことばかり・・・
こんなことに悩んでいるの私だけじゃないのかな？

ほんとにだれもが子育てに不安を持っているんだよ
ふくちやまCAPの**つながる一む**は、
そんなあなたに寄り添う場。
子育てのこと誰かに話したいとき
一人だけで子どもと向き合うことにちょっとだけ疲れたとき
気軽に立ち寄ってください。

場所：福知山市昭和町7番地 谷本ビル通路
たんたんスペース
定員：親子5組程度（お父さんも歓迎） **参加費無料**

主催・お問い合わせ・相談メール
ふくちやまCAP（足立厚子）090-8794-2272
Mail:tunagaru@fukuchiyama-cap.com
★HPのフォームメールも利用できます。
<http://www.fukuchiyama-cap.com/>

HPのアドレス
スマホでスキャンしてね



全労済地域貢献助成事業

(事業の振り返り)

「つながって安心な子育て」の参加者が集う場所をつくることで、このつながる一むという場が、子育ての不安を解消する場所になっています。

また子育て中の親の生活圏に出向く「出張つながる一む」も実施したことで、つながる一むに参加できない遠方の方にも CAP のワークショップを体験していただくことが出来、その後の子どもワークショップや保護者ワークショップにつながりました。

たんたんスペースでの様子 (子どもと一緒に参加)



かえでこども園 (与謝野市) での様子



教職員ワークショップ

1. 大正小学校

活動内容：教職員研修としてCAP教職員ワークショップを実施。

日時：8月28日(火) 13時30分～15時30分

場所：大正小学校

参加人数：22人

(受講者からの感想・意見の集約)

- ・教師という立場が子どもたちを救える重要な立場であるということがよくわかりました。
- ・虐待の特徴を具体的に教えていただき分かりやすかったです。
- ・教職に対する研修で、聞く側が飽きないように、ペープサートなどを入れるとよいと思います。
- ・自分の権利を守る、他人の権利をうばってはいけないということが視覚的にも分かりやすく、権利がうばわれつつある時に、どう対処するかも分かりやすいです。

(振り返り)

教職員の皆さんが、子どもの人権について真剣に取り組まれている様子が伝わってきました。また、今回大正小学校で教職員ワークショップを実施していただいたことで、今後他の学校においても教職員に対する夏休みの研修にCAPのワークショップを取り入れていただける可能性を感じ、今後につなげたいと思いました。

2. 児童虐待未然防止対策研修会：丹後保健所主催

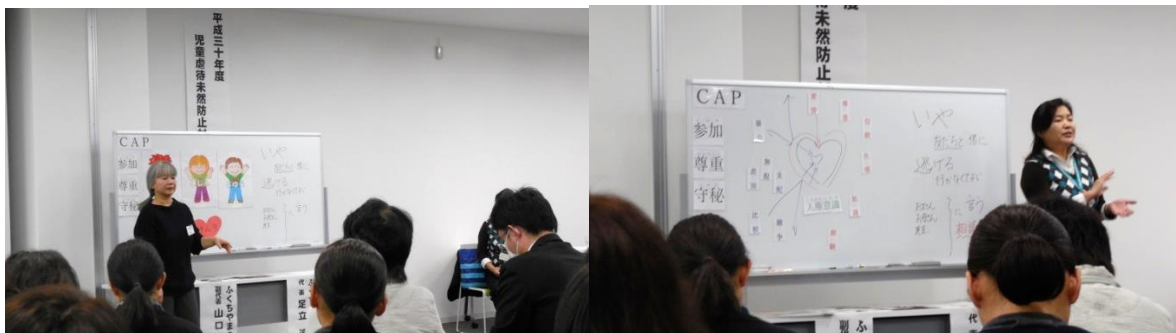
～子どもの虐待防止のために保育所（園）、学校ができること～

活動内容：京丹後市、宮津市、伊根町、与謝野町の保育園、高校、施設の教職員に対して児童虐待防止対策の研修として教職員ワークショップを実施。

日時：11月19日（月） 14時～16時

場所：宮津福祉・教育総合プラザ3階 第一コミュニティルーム

参加人数：50人



(受講者からの感想・意見の集約)

- ・誰もが守られるべき存在であることを、虐待されている子ども自身に気付かせ、口に出す一歩になるということを学びました。
- ・子ども達に、自分達も持っている（保障されなければならない）権利を知ることが、とても大切だということがわかりました。
- ・自分を大切に」と思っても、具体的にどう子どもに伝えていいのかわからなかったが、具体的なロールプレイでわかりやすかったです。

・子どもの自己肯定感を育てることを大切にしているプログラムであることが素晴らしいと思いました。



(振り返り)

京丹後市や宮津市、伊根町、与謝野町から保育園、高校、施設の教職員など、多数の方にご参加いただきました。CAPプログラムの教職員ワークショップは、ロールプレイなどを通じて子どもの人権について分かりやすく伝えてくれるという感想をたくさんいただき、今後も京都府内で同様の研修を続けていかなければと思いました。

参加していただいた教職員の方からは、被虐待児への対応についてさらに深く学びたいとの意見もいただきました。

地域ワークショップ

1. 人権を考える女性の集い・第3分科会「子どもの人権」(福知山市)

活動内容：「子どもたちを取り巻く様々な課題について考えましょう」というテーマで、CAPワークショップを実施。「しつけとしての体罰は必要か?」「子どもを守るために出来ることは何か?」を主な課題として意見交換するとともに、ディベートも行った。

日時：2月3日(日) 13時～15時30分

場所：市民交流プラザふくちやま 市民交流スペース

参加人数：21人

集いの様子の写真



(受講者からの感想・意見の集約)

- ・帰ったら子どもの話を聴こうと思います。
- ・子どもの視点で大人の声のかけ方を考えることができよかったです。
- ・子どもたちが自分は自分でいいんだ。守られている安心できる環境をつくっていくことが大切だと感じました。CAPさんの話をはじめて聞いたが、とても分かりやすいと感じました。「権利」は難しい言葉だが、これなら保育園児にも分かりやすいと感じました。
- ・参加者の思いや考えを聞いたのがよかったです。
- ・子どもの人権を守る立場として日常に活かしていきたいと思います。講演会形式でなくワークショップ形式で学びやすかったです。
- ・子どもを守る、安心、自身、自由の大切さ、また、子どものみならず大人にもいえること子どもも大人もそれぞれの立場で自分らしく生きていくことが大切だと感じました。
- ・子どもの人権を尊重するために、これからできることを学ぶことができました。
- ・ご自身の生き立ちの経験から、思った以上に体罰に対し容認する方が多いことにとっても驚きました。叩いたところで相手にどれだけ思いが伝わるのか。心の傷とこちらの罪悪感だけが残るように思います。自分はなぜ怒っているか、時間がかかっても、言葉を変えながらわかるまで向き合うことが大切だと感じました。
- ・参加型で時間もあっという間に感じ楽しかったです。子どもの人権を大切にすること、言葉のかけ方も見直していきたいと思います。

(事業の振り返り)

「しつけとしての体罰は必要か？」というテーマについて考えました。必要であると思う人・必要でないと思う人に分かれ、それぞれが率直な意見を出し合い、体罰は子どもの人権を奪うものであり、体罰を使わないしつけが大切であることをすべての参加者に考えてもらうことが出来ました。

「どんな人に相談したい」というテーマでは、実際に子どもの立場で相談したい人を想像して考えてもらいました。結果、困っている子どもの話を聴ける大人でありたいという意見が多く、子どもの人権が尊重される社会への一歩になりました。

児童養護施設ワークショップ

活動内容：児童養護施設などではすでに心と体を傷つけられた体験を持つ子どもが多く、子どもの内にある力を活性化するには、子どもの日常生活をサポートする施設職員との協働が欠かせません。社会的養護のもとに暮らす子どもたちに「あなたは大切な人」というメッセージを届けるために、より以上に一人ひとりを尊重し、注目しながらワークショップを行うことが重要となるため、少人数で日数をかけて丁寧に提供することを心がけています。また、施設職員に対しては、傷ついた子どもの心を理解して、どのように接することが大切かを学んでいただきます。

1. 峰山乳児院（京丹後市）

◆子どもワークショップ

（小学生/低学年）日時：8月23日（木）午前・24日（金）午前

（小学生/高学年）日時：8月24日（金）午後

◆教職員ワークショップ

日時：8月23日（木）13時～15時

参加人数：30人

（受講された教職員の感想・意見の集約）

- ・このワークショップを受けて、子どもの感情、気持ちに共感することを大事にしたいと思いました。
- ・自分が子どもの気持ちになって考える時間があり、より子どもの思いに触れられたと感じました。普段も子どもの気持ちに寄り添い保育をしています。子どもを守るために、自分が何をしていけるのか改めて考える良い機会となりました。
- ・「CAPプログラム」について知ることができて良かったです。今日、学んだことを活かして、子どもたちに関わっていきたいと思います。特に声かけの仕方を今日から変えていきたいと思いました。
- ・自分自身が自分のことを大切に思い、好きでいることが大切なのだと改めて理解することが出来ました。周りの人も大切にできるように、心に寄り添っていきけるような温かい人間を目指したいです。
- ・子どもたちへの接し方、言葉かけ、一つ一つが大切だということを分かりました。
- ・子どもたちと接する上で、居場所づくりが大切であると思いました。その手伝いを少しでもできるようになりたいです。
- ・CAPについて、とても分かりやすく学べました。
- ・今日習った言葉かけを、子どもたちにしていきたいと思いました。

(振り返り)

同院では、2002年からCAPプログラム（子どもワークショップと教職員ワークショップ）が取り入れられています。子ども向けワークショップ中のやり取りから、継続して受講している子どもたちが、「安心・自信・自由」の権利を、しっかり自分の意識として持っていることが感じられました。日常、子どもたちと接している職員の方々が、CAPプログラムで伝えた、「子どもの人権を尊重」し、「肯定的な関わり」を続けておられること、その積み重ねが何よりの子どもたちのエンパワメントになっています。代表者の方の「1回聞いて終わりではなく、大人が学び続けることが大事です」という言葉にも、CAPプログラムへの信頼を実感しました。

啓発活動

1. 真如苑 子どもの生活支援基金（2019年10月まで継続事業）

1年目は、福知山市において、特に虐待が起こりやすい就学前の子どもを持つ保護者に焦点を当て、講演会とモデルワークショップを通して啓発を中心に活動を行った。2年目は、京都北部全体に就学前の子どもを持つ保護者への虐待防止の意識を高めるため、京都北部にある3つの保健所や子育て支援課と連携を取り、保護者に呼びかけて虐待防止のための相談の場（グループワークなどにより実施）を設け、その際に保護者向けワークショップと就学前の子どもに対する「子どもの力を引き出すワークショップ」を体験してもらい、また、就学前の子どもたちにも各地域で「子どもの力を引き出すワークショップ」を実施することによりその効果を実感してもらいたいと考えている。

活動内容：保護者や教育関係者、地域の人たちが、子どもへのいじめや虐待、性暴力などの実態を知り、子どもの権利を守り、子どもを暴力から守るために何が必要かを知っていただくために、直接訪問・イベント参加してパンフレットを配布。

(2017年度に作成)

予算：400,000円

主な配布先：

- ・京都府庁
- ・京都府中丹広域振興局
- ・京都府北部保健所（中丹西保健所・中丹東保健所・丹後保健所）
- ・京都北部家庭センター
- ・福知山市（子育て政策室・図書館・児童館・人権推進室・地域コミュニティセンター）
- ・福知山市内各店舗等（明智茶屋・サンホテル・大嶋カーサービス他）
- ・舞鶴市（子ども支援課・子育て交流施設あそびあむ）

(事業の振り返り)

イベントなどにおいて子どもたちと触れ合うなかで、子どもの人権を考える大人がいることを知ってもらえた。ブースで子どもたちに気持ちを書き出す体験をしてもらう中で、嬉しいときには「嬉しい！！」という気持ちを素直に出して、困ったことがあったときには抱え込まずに「話していいんだ」「言ってもいいんだ」ということを伝えることが出来た。

子どもへの虐待やドメスティックバイオレンスなどが子どもの体や心に与える影響についてまだまだ認識されない中で、大人にはイベントでのパンフレットの配布や説明などを通してどのようなことが子どもへの暴力にあたるのかなどを知っていただけた。また、保護者や教育関係者、地域の人に対しても、いじめや虐待、性暴力などの実態を知り、子どもの権利を守り、子どもを暴力から守るために何が必要かを知っていただくためにCAPプログラムが効果的であることを伝えることが出来た。